

特集 全国民生委員児童委員大会について

インフォメーション

ホームページのリニューアルについて …	5
令和7年度事業計画 ……………	6
令和7年度道民児連事業日程表 ………	6
令和7年度収支予算 ……………	7
エッセイ:ひとをつなぐ 「10肩の力を抜こう」 ……………	8

全国民生委員児童委員大会について

令和6年度第93回全国民生委員児童委員大会が、

令和6年11月20日(水)、21日(木)宮崎県宮崎市において

開催されました。

大会1日目式典の後半、道民児連佐川会長が登壇し、

次期開催地としての挨拶を行い、

北海道および札幌市からの参加者が

黄色いハンカチを振ってPRを行いました。

本年9月4日(木)、5日(金)の

第94回全国民生委員児童委員大会北海道大会の開催に向けて、

全国大会の歴史を振り返り、

全国からの参加者をお迎えする準備号として特集します。



全国民生委員児童委員大会は、民生委員児童委員活動に関する研修の場であるだけではなく、全国から民児協の代表者が結集する場であり、新たな民児協間交流の機会としています。参加者が、その学びを地元を持ち帰り、民児協活動に還元することで、各地の民児協活動の一層の充実につなげていくことを期待しています。

また、この大会は、民生委員児童委員制度や活動を取り巻く情勢について、認識の共通化を図るほか、民児協活動の方向性や重点等を確認する場として、その歴史は、戦前戦後の混乱期など幾多の変遷を経て、先達から脈々と受け継がれてきた民生委員制度の歴史に大きく関わってきた歴史であるとも言えます。

■民生委員制度の創設

日本は、大正3年に第一次世界大戦（以下、「一次大戦」）に参加し戦勝国となりますが、一次大戦前後のこの時期、国民の生活不安は深刻でした。物価騰貴が民衆の生活を苦しめ、「米騒動」が全国に波及し、社会が混乱しました。こうした状況を背景に、民生委員制度のみなもとである「済世顧問制度」が大正6年岡山県で誕生し、翌大正7年には、大阪府で「方面委員制度」が発足し、全国に普及していくこととなります。

■全国方面委員大会の開催

方面委員制度創始10年後、よ

うやく設置道府県が1道3府36

県、委員数1万2,849名に

達した昭和2年に初めて方面委

員の全国的集会が開催されまし

た。第1回は「全国方面委員会

議」の名のもと、中央社会事業

協会（現全国社会福祉協議会）

主催で、昭和2年10月21日、22

日の両日東京で開催されまし

た。なお、続いて23日から3日

間、厚生省会議室で講習会も行

われています。

以後、戦争時代に入る昭和12

年まで8回にわたり全国方面委

員大会が開催されますが、全国

方面委員大会では、方面委員制

度の普及に伴い、制度自体に、

あるいは当時の社会情勢などを

背景とする方面委員活動の改善

向上を図るべく幾多の提案や決

定が行われています。

■方面委員制度の発展

昭和初期、日本は、世界恐慌の影響を受けて昭和恐慌に陥り、数多くの困窮者が発生し、農村部を中心に娘の身売りが相次ぎ、社会問題となります。こうした状況に対応するため、それまでの「恤救規則」に代わる新たな公的救済制度として「救護法」が誕生しますが、財源不足により国はそれをすぐに実施することができませんでした。救護法実施に導いた方面委員は、市町村長の補助機関たる「救護委員」と位置付けられることとなりますが、救護法実施前後の方面委員制度の発展は、

全国方面委員大会の協議事項を見るとよくわかります。

第1回（昭和2年10月）は方面委員制度の整備、方面委員全国連盟組織案の提唱ほか、第2回（昭和4年11月）は救護法の実施促進、方面委員制度の法制化、全国方面委員の連絡統一の促進ほかでした。昭和6年4月、全国の方面委員の連絡と調整、協働を目指して全日本方面委員連盟（現全国民生委員児童委員連合会）が設立、初代会長に中央社会事業協会会長であった実業家の渋沢栄一氏が推挙され、全日本方面委員連盟が主催者となった第3回（昭和8年3月）は救護法実施の迅速適正ほかでした。第4回（昭和8年10月）は要救護の取り扱いほか、第5回（昭和9年10月）は救療普及、親子心中防止ほか、第6回（昭和10年4月）は方面委員制度徹底強化ほか、第7回（昭和11年5月）は結核療養施設の拡充、公私社会事業施設との連絡ほかとなっています。

昭和11年11月、方面委員令が公布され、方面委員制度は全国統一の制度となりますが、翌年5月、方面委員制度創始20周年記念大会として開催された第8

回大会の2か月後に日中戦争が勃発し、歴史的変動期を迎えることとなります。戦時中に開催された全国方面委員大会の内容は、戦時的特色を現し国運を賭しての大戦遂行のための国策に協力する態勢の整備強化が中心とされましたが、それは時節柄当然のことでした。

■皇室と民生委員

戦後、民生委員制度になってからは、昭和21年、民生委員令の制定実施直後に京都市で第1回全国民生委員大会が開催されました。この大会では、民生委員制度となってから初めての大会として、制度の運営方針と活動態勢の整備、委員精神の高揚を図り、国民生活の安定施策の万全を期することを主眼としていました。

昭和22年に開催された全国社会事業大会に含まれた第2回大会では、初めて天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、高松宮大会総裁の式辞、天皇陛下のお言葉、片山哲総理大臣の特別講演が行われました。

民生委員の歴史は、皇室とも多様な結びつきをもちながら経

表1 民生委員児童委員記念大会への皇室のご臨席および御製等の御下賜

年	名 称	皇室のご臨席	御製・御歌の下賜	開催地
昭和22年	全国社会事業大会	天皇皇后両陛下、 高松宮殿下		東京都
昭和24年			貞明皇后より御歌下賜	
昭和31年	民生委員法制定10周年記念 全国民生委員児童委員大会	高松宮妃殿下		福岡県小倉市
昭和32年	民生委員制度創設40周年記念 全国社会福祉大会	天皇皇后両陛下	香淳皇后より御歌下賜	東京都
昭和42年	民生委員制度創設50周年記念 全国社会福祉大会	天皇皇后両陛下	天皇陛下より御製下賜	東京都
昭和62年	民生委員制度創設70周年記念 全国民生委員児童委員大会	皇太子同妃両殿下		東京都
平成9年	済世顧問制度創設80周年記念 全国民生委員児童委員大会	高円宮同妃両殿下		東京都
平成19年	民生委員制度創設90周年記念 全国民生委員児童委員大会	天皇皇后両陛下		東京都
平成29年	民生委員制度創設100周年記念 全国民生委員児童委員大会	天皇皇后両陛下		東京都

過してきました。大正5年5月、宮中で開催された地方長官会議において、岡山県笠井信一知事は、大正天皇から「県下の貧しい人々の生活状況はどうか」と御下問をうけますが、その問

いかけが、後に「済世顧問制度」を生むきっかけとなりました。また、前述のとおり、予算が確保できずに実施時期が定まらずにいた救護法実施の厚い壁を打ち破るべく、昭和6年2月、全

国方面委員の代表は天皇への上奏を決意し、「救護法実施請願ノ表」を持参して残雪の皇居二重橋前に整列しました。自らの辞表を胸に困窮者支援を訴えたその思いが事態を開くこととなり、翌、昭和7年1月、救護法は実施されることになったのです。

戦後、功労民生委員に対する表彰や弔意として、御下賜特別基金から記念品の贈呈が行われるようになり、昭和24年6月、制度の育ての親ともいべき原泰一氏が大宮御所に招かれ労をねぎらわれました。その時に賜った御歌は、直ちに複製され全国の民生委員関係者に配布されています。

これまでの記念大会への皇室

のご臨席および御製等の御下賜の状況については、【表1】のとおりです。

■北海道大会の開催

昭和23年に北海道札幌市において、第3回全国民生委員児童委員大会が全日本民生委員連盟（現全国民生委員児童委員連合会）、北海道、北海道民生委員連盟（現北海道民生委員児童委員連盟）、札幌市の共同主催で開催されました。この大会は、児童福祉法の実施による児童委員としての具体的活動方策と制度運営上の諸問題、具体的活動分野と技術の研究を主眼としていましたが、民生委員法の制定に際してとられた「民生委員と議員との兼職禁止の措置」についても白熱した議論が交わされました。

■これまでの全国大会の開催状況

以下、これまでの全国大会における主な出来事等を抜粋します。

- ・昭和24年大会
民生委員の歌「花咲く郷土」、

民生委員を讃える歌「光とともに」を発表

- ・昭和26年大会
民生委員信条を制定

- ・昭和28年大会
世帯更生資金貸付制度の要望

- ・昭和31年大会
市町村社協の法制化、母子福祉法の制定などの要望

- ・昭和35年大会
総務の役割について討議、世帯更生運動推進強化に関する決議

- ・昭和39年大会
民生委員の近代化の問題がクローズアップ

- ・昭和41年大会
民生委員児童委員活動強化要綱案・50周年記念事業計画案の協議

- ・昭和46年大会
民生委員の大幅増員と制度の刷新改善が重要な決定事項

- ・昭和49年大会
民児協の充実強化が活発議論

- ・昭和52年大会
60周年民生委員児童委員活動強化方策を採択

- ・昭和55年大会
心配ごと相談活動の推進強化について議論

- ・昭和57年大会

- 活動強化方策5年目の成果集約、世帯更生援助強化運動の評価
- 昭和62年大会
- 70周年民生委員児童委員活動強化方策の策定
- 平成4年大会
- 総課題「地域福祉の推進と生活支援活動の強化」
- 平成5年大会
- 研究委員会テーマ「主任児童委員設置と児童委員活動」
- 平成7年大会
- 改正された民生委員児童委員信条を発表
- 平成8年大会
- 80周年民生委員児童委員活動強化方策の骨子案
- 平成9年大会
- 民生委員制度創設80周年記念大会
- 平成10年大会
- 民生委員法制定50周年記念大会
- 平成12年大会
- 民生委員法・児童福祉法の改正を受け活動の在り方を考える大会
- 平成13年大会
- テーマ「地域福祉の担い手としての委員活動の在り方」
- 平成17年大会

- 自然災害に対する民児協、民生委員としての備えが大きなテーマ
- 平成19年大会
- 民生委員制度創設90周年記念大会
- 平成20年大会
- 災害時一人も見逃さない運動の推進
- 平成23年大会
- 東日本大震災の被災地である青森県で開催
- 平成25年大会
- 全国児童委員活動強化方策に基づく児童委員活動の推進
- 平成26年大会
- ブロック輪番制の導入
- 平成29年大会
- 民生委員制度創設100周年記念大会

■近年の動向

令和の時代に入ると、全国大会は自然災害や新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開催の中止や縮小を余儀なくされましたが、令和4年度の名古屋大会よりこれまでの開催形式による大会が復活し、2日目は、「高齢者・障がい者」、「子ども」、「生活困窮」、「民児協

機能」、「災害に備える」の5つを基本テーマとして、活動交流集会やシンポジウムが開催されています。

■令和7年度第94回北海道大会を開催

北海道では、昭和23年開催の後、昭和36年、昭和47年、昭和57年と、これまでに4回の全国大会が開催されてきました。本年札幌市で開催する第94回大会、実に43年ぶりに北海道で開催される大会となります。

極めて稀な大会となることが見込まれています。本連盟では、令和5年9月に札幌市民児協と協働で「令和7年度全国民生委員児童委員大会実行委員会」（北海道、札幌市、道民児連、札幌市社協、道民児連、札幌市民児協）を立ち上げ、開催地としての準備を進めています。全国からの参加者をお迎えするために、道内の参加者には入場時間や駐車場使用などに制限を設けさせていただくこととなり、皆様のご理解とご協力が不可欠となります。

昨年11月に実施した「令和7年度第94回全国民生委員児童委員大会北海道大会参加に係る事前調査」では、全道（札幌市民児協の参加者を含まない）から2,200名を超える参加希望が寄せられ、本大会は5,000名規模での開催準備が進められています。これまで、周年記念大会を除き参加者が5,000名を超えた記録はなく、

これまで民生委員制度とともに歩んできた大会の歴史とその関係者の思いを引き継ぎ、全国の民生委員児童委員が一人となり、これからの民生委員児童委員活動の充実と発展に寄与し、これからも「明るく楽しく元気よく活動していける。」そんな機会となる大会としてまいりたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

〈参考文献〉

民生委員制度百年通史…社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国民生委員児童委員連合会2019.4.30

道民児連ホームページをリニューアルしました



道民児連のホームページが、これまでよりも見やすく、使いやすく、検索しやすく、カッコよくリニューアルしました。
ぜひアクセスいただき、忌憚のないご意見をお寄せください。

URL <https://www.dominjiren.jp>

ゆるストイック

ーノイズに邪魔されず1日を積み上げる思考



佐藤 航陽 著
ダイヤモンド社
1,760円(税込)

■ 内容

高度経済成長期からバブル期にかけて、日本は経済発展に沸き、それと共に競争が激化しました。勝者と敗者が生まれることが、当たり前のように受け入れられる社会。テレビCMでは「24時間働けますか」のキャッチフレーズが、美徳のように流れた時代でした。

やがて、そうした時代への反省がゆとり教育へと反映され、競つことへの忌避の風潮がじわりと広まってきました。時が流れて迎えたコロナウィルスのパンデミック時は、かつての成長主義への反動か、多くの人が「がんばらなくていい」という癒しのメッセージを受け入れました。そして現在、競争の結果として勝者になることを美德とする生き方にはもう戻れない、だからといって頑張らずゆるめると生きることにも納得して受け入れられないという方も

少なくないはず。

自分の価値観を大切にしつつも、柔軟に社会に適応する生き方。それが本書の提示する「ゆるストイック」。自身が輝くためには、どう生きていくのがいいのか。そのために著者は「自分に配られたカードを知る」「活動に没頭する」「柔軟に変化し続ける」という3軸の思考を提案しています。

要は自分と他人との違いを認知し、それにそってベターな行動戦略を立てること。本書はビジネス書に区別されていきますが、実は生き方そのものに語り掛けるカウンセリングでもあるのです。

個性と多様性、主体性と受動性、協調と排他、そして不透明な未来。あらゆる道標が曖昧な今の時代を、胸を張って生きるために手に取りたい一冊。

エッセイ

ひとを
つなぐ

⑮ 肩の力を抜こう

鳥居 一頼

何もできないとわかっている

誰かの代わりができるわけがない

でも肩に背負ったものが重たい

何もわからないと知っている

誰もが通った道に立つ

プレッシャーで足がすくむ

何もないとこから始めよう

何もできないところから始めよう

何もわからないところから始めよう

ひとつふたつと回を重ねていこう

一度二度と繰り返して身につけよう

一人二人とわかってくれる人もできた

普段の自分を忘れていた

身構える自分が嫌いだつた

肩の力を抜いてと優しく言われた

民生委員児童委員のなりたてです

初めてを思いだして教えてください

肩の力の抜き方からお願いします

【筆者紹介】

鳥居 一頼(トリイ カズヨリ) 1949年生、登別市出身、北海道教育大卒。道内で18年間教壇に立つ。道教委、道庁などに勤務後、室蘭・登別で小学校校長歴任。その後関西の私立大学の教授。現在、登別市きずな大使として市社協の地域福祉実践計画推進を支援するかわら、地域福祉アドバイザーとしても活動している。社会福祉法人北海道友愛福祉会理事。また道民児連が令和5年より設置した「民児協のあり方検討委員会」の委員長を担われている。『民生委員児童委員のためのワークショップのすすめ』(道民児連2021年刊)の中で詩集「情緒は私を支配する。論理よりも強く」が教材化され、初任者研修では詩をもちいた斬新な研修スタイルが評価されている。主な著書に「子どもと学ぶボランティア」こつちよのボランティア授業論(大阪ボランティア協会など)。